

職場には様々な立場があり、その立場には決まった役割があります。経営者には経営者の、上司には上司の、部下には部下の役割があるでしょう。役割は、役割や職務を明確にする組織運営には欠かせないものです。ゆえに、自分のおかれた役割や立場の自覚を深めることは、仕事を円滑に進める第一歩と言えるのです。

「自覚」とは「自分の置かれている位置・状態、また、自分の価値・能力などをはつきり知ること」です。

同じ会社で働くKさん夫妻は、上司と部下の関係です。Kさんは、部下である妻からいつも「専務」と役割で呼ばれていました。それは家庭内でも同様で、それを見た子供たちも父親であるKさんを「専務」と呼んでいたのです。

そのようなある日、妻から「息子が学校で友達と喧嘩し、相手の子を怪我させた」と聞かされました。そして、学校の先生と相手の親との話し合いには、Kさんが赴くことになったのです。

Kさんが息子に詳しい事情を聴くと、双方に非があることがわかりました。ゆえにKさんは「まずは息子を信じてみよう」と心に決めて、話し合いに臨みました。

当日、相手の親は「お宅の教育はどうなっている」「どう責任を取るつもりだ」と、一方的に責め立ててきます。はじめは我慢していたKさんでしたが、ついに限界を越え「怪我をさせてしまったことは悪いことですが、おたくの子がそもそも」と反論



自分の立ち位置を見極める

したのです。すると、それに息子が言葉を続けました。「専務の言う通りだ。僕も反省しているけど、僕だけが悪いわけじゃない」。その言葉に、その場の全員が唖然としました。次の瞬間、相手の親が声を荒らげます。「何が専務ですか。ふざけるのもいい加減にしろ」。息子が父親を「専務」と呼ぶ姿が相手の目にふざけていると映ったのです。結局、それをきっかけに冷静に話すことができなくなり、收拾がつかないまま話し合いを終えることになりました。

家に帰り、そのことを妻に話すと、「あなた、これからは役割で呼び合うのは止めましょう。家ではお互いに親として、息子の親でありましょうよ」と言われたのです。その言葉に「家では夫であり、父親である」との自覚を深めたKさん。今では、お互いに名前呼び合っています。

Kさんの話を通して、改めてその場にふさわしい役割があり、それに相応する呼称があることが理解できます。

特に人は、生活の場面によって立場が変わるため、場面毎に立場を意識して生活することが肝要です。職場では経営者である人も家に帰れば夫（妻）になり、子供の前では親であり、親の前では子供になります。その場に集う人々が、立場を自覚し、使命を全うする時、チームとしての力が最大限に発揮されます。

まずは、経営者自らがリーダーとしての自覚を深め、与えられた役割を全うしていきたいものです。